

Green

グリーンスケッチ

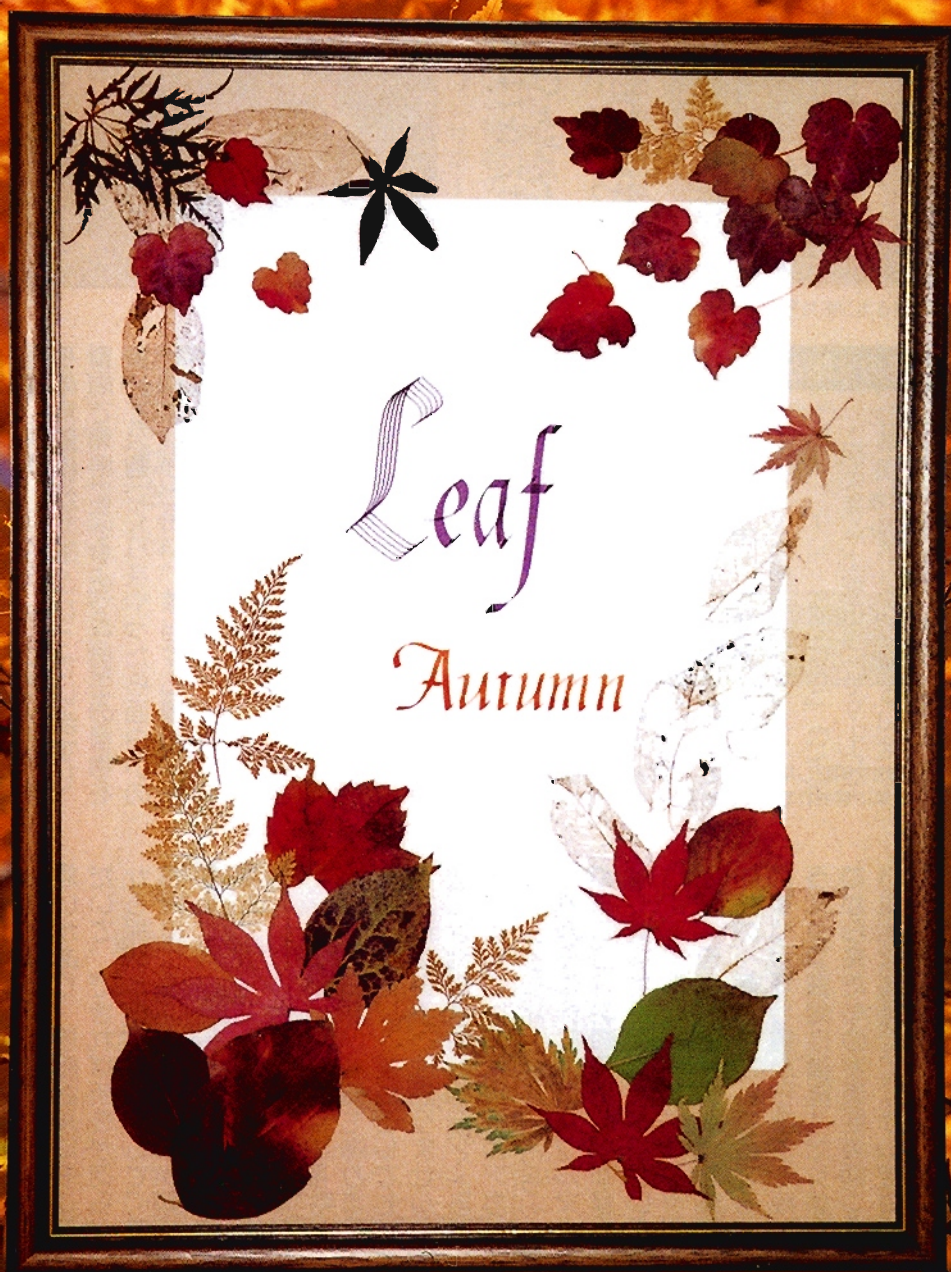
Sketch

No. 13
AUTUMN 2001

特集

種から始まる森づくりへの挑戦!!
—特色のある緑の公園をつくる会—

- にいがた秋の散歩道
- 植物に親しむ
- 花と緑のイベント情報
- 緑花センター掲示板
- 花と緑のお悩み相談室
- 緑のボランティア団体紹介



種がうなる森づくりへの挑戦!!

北限の常緑樹を集め特色のある公園に

新潟県が北限となっている常緑樹。そんな常緑樹の森を荒川町の公園につくりたいという夢から、北限の常緑樹にこだわって、植樹活動を行っている団体「特色のある緑の公園をつくる会」があります。この会の会長である佐藤 巧さん、そして、この活動に深くかかわり、また当センターの花と緑のアドバイザーとして活躍されている石澤 進さんにお話を伺います。



石澤 進さん

新潟大学理学部の教授を退官後、新潟市文化振興財団の植物文化アドバイザーに就任。新潟県環境審議会委員、新潟市文化財審議会委員、新潟県植物保護協会代表。当センターの花と緑のアドバイザーとしても活躍中。



佐藤 巧さん

特色のある緑の公園を造る会の会長として4年目。その支援団体サマーフェスティバル実行委員長としても活躍中。また薬木草の利用についての指導も行っている。

この活動を行うことになったきっかけは何でしょう？

佐藤 荒川町のグリーンパークあらかわ総合運動公園が完成された時、完成はしたけれども何か殺風景で、この辺の地元の木を植えてみたいなという気持ちもあったのだと思います。この公園に何か適当な木を植えて緑を増やしたいんじゃないか、そのためにはどうしたらよいか考えました。

石澤 私も多少植物に関わっていたので、相談を受けて、どうせつくるなら県内でも珍しい、他のところでは取組んだことのない緑化をやったらよいのではないかと考えました。

佐藤 その頃、荒川町にアカガシが生じていて、佐渡にあるアカガシとどちらが北限かということをお話を聞きまし

日本海側で分布の北限となっている常緑樹

高木	・アカガシ (荒川町) ・シイノキ (佐渡) ・ウラジロガシ (粟島) ・ヤマグルマ (中条町) ・ソヨゴ (山北町)	・ユズリハ (佐渡又は弥彦山) ・チョウセンゴヨウ (苗場山系) ・ウラジロモミ (苗場山系) ・コウヤマキ (上川村)
低木	・マルバシャリンバイ (山形県温海町)	
つる	・イタビカスラ (粟島)	・ミヤマフユイチゴ (新発田市)



産地を明記したプレート。苗木なので目印がないと雑草に埋もれてしまいます。

佐藤 それこそ最初は種を集めるのが先生が一番苦労されたところだと思えます。しかし種から苗木を育てるといふスタンスだけは変えたくないし、どこから来たものか素性のはつきりしない樹木は植えたくなかつたのです。例えば、北限の樹木でも天変地異や火災などで枯れてしまふ可能性もあります。その場合、その樹木から取った種で育てた苗木を採取地に戻すこ

で。それじゃあ、北限の常緑樹にこだわるのはどうだろうと思いました。新潟県内にも北限の常緑樹を集めた公園は他にはないことだし、ここでつくることのできるのではないかと、アドバイザーをいただいたのがきっかけですね。

石澤 荒川町近くでは、いろいろな樹種の常緑樹が北限となっていますし、県内で北限になるような自生の植物を集めて公園づくりをやったら面白いのではないかと思ひ、該当する種類にはどんなものがあるのかリストアップをしてみました。

佐藤 その資料をもとに、荒川町長さんにこの活動の企画を提案し、石澤先生にも足を運んで頂いて説得していただきました。

どのような苦労がありましたか？

石澤 北限の常緑樹ならば、なんでもかんでも植えるのはやめようという話になりました。一特色のある緑の公園づくり」というのは将来、学術的にも対応できるようなものにしなさいという思いがあり、佐藤さんにもご理解いただいで、できれば所在が明らかな樹木から採取した種を育成して、苗木に育て植樹していくことになりました。しかし、言い出したのはいいけれど、実際どこから種を集めるのか。北限の植物ということで分布の限界になりますと、必ず種が実るとは限らない。いまだに集まらない種類もあります。その年に種が採取できたとしても、次の年また種が実るとは限りません。種の採取には今後も苦労が続くと思えます。

ともできるようにと考えています。その為に、この種を採取したのが、産地を明記したプレートもつけています。

ボランティアの参加者を集めるという点についてはいかがでしたか？

佐藤 そうですね。植えるということとは簡単なんです。ただ管理するのが非常に難しい。管理するところまで考えてくれる人、その前に自分で育てたいという人に植えほしいという気持ちがあります。そうすれば植えた人は必ずこの公園を利用するわけで、特色のある公園を造れば、荒川町だけでなく広域の人達もこの公園を利用するのではないかと考えました。それから子供達にも植樹に参加してほしいという気持ちがあったのですが、学校側の理解を得るのにも最初は苦労しました。ボランティアの活動ですと、万が一の場合があると限らない。ですから最初は「何人でも構わないので植えたい子供達だけ参加して下さい」という形でお願いしました。町内の小学校2校と中学校1校にお願いし、45人が参加してくれました。植樹の時、子供達の苗木を植えている顔が非常にいい顔だったんです。1年間かけてつくった苗木を笑顔で植えてくれることによつて、「また来年も苗木をつくらななきゃな」という気持ちにさせてくれました。先生方もその様子をみて「来年もやりませんか？」と聞いてくれるようになりまして。私はあくまでも植えたいと思っている子供達だけとお願したのですが、「子供達全員に植えさせたいので、全員の苗木を育ててくれませんか？」という話になったのが活動をはじめから3年目です。

石澤 町、学校の関係者を説得しながら子供達に参加してもらおうと、ころころは佐藤さん自ら汗をかいて、大変なご苦労があったと思います。人々の理解を得るということとはなかなか大変なことです。しかしそういうことをやらないと長続きはしないと思います。



子供達による植樹活動

苗木の維持管理はどうなさっているのですか？

佐藤 水やりや、除草作業はこの会の会員でやっています。「特色のある緑の公園をつくる会」は「サマーフェスティバル実行委員会」というイベントの実行委員会が前身になっている会なのですが、「次世代を担う青少年の健全な育成と地域の活性化」を目的として今まで活動してきた会ですので、会員にとつては木を育てることもこの目的に違和感のないことでした。一方ではイベントという華々しいことをやりながら、地道な活動もやっていかなければ、人は来てくれないということと、並行してやっています。すべてボランティアでやっているのが本当に大変なのですが地道に活動を続けています。

この活動のPRや一般の参加者への呼びかけは行っているのですか？

佐藤 PR的なことはほとんどやっていません。急にバツと広まってしまっ

よりも、少しずつ植えていきたいと思つています。一気に植えて、すぐに枯れてしまつては見向きもしないでしよう。最初から大きな木を植えても愛着を感じないし、その場しのぎになつてしましますから。一般の方には、荒川町にお願ひして5月の中旬に、6月上旬に行う植樹の参加者募集のチラシを町内の家庭に配布して頂いています。また、7月の第4土曜日に「サマーフェスティバル イン アラカワ」のイベントが毎年この公園で開催されます。その時、植樹に参加された方に自分の名前と苗木の産地名のついたプレートを渡すことになっています。イベントの1つ植樹観察会の中でも、今までこの植樹に参加した方々に自分の木がどのくらい成長したのか観察してもらつています。



今年にはいがた「緑」の百年物語の一環として記念植樹を開催

今後の目標、夢についてお聞かせください。

佐藤 ゆくゆくはこの活動が評価されて県や国の指定が受けられるような公園づくりをしていきたいですね。あとは緑の木陰が増えて、天気の良い日には公園の中を散歩している人が増えていくといいですね。今の状態では木陰が少なくて夏は炎天下にさらされているようなものだから、植樹した木が大きくなって森になったときに、音楽会のように木から響く音が聞こえてく

れば最高ですね。石澤 木が大きく育った時に私が生きているか分かりませんが、この公園に期待していることは、将来この公園に植物園的な要素が整ってくるかと思つています。ここに来ると常緑樹のほとんどの種類を見ることが出来る。しかも産地名まできちんとしている。全国的に見ても、そんな公園はそうはないと思ひます。学術的にも耐えるような要素が整つていくといいなと陰ながら夢を見ています。

1つの小さな種から大きな森に変わるまで、この会の緑の百年物語は少しずつですが着実に始まっています。百年後、立派な常緑樹の森となる日が楽しみです。

紅葉の季節・落ち葉の美しさを感じてみよう!!



○葉っぱが赤色に変わるしくみ
葉が紅くなる樹木は、葉が落ちるまえに、葉と枝の間に離層というものがつくられ、葉と茎の間で水や養分の流れが妨げられます。そうすると葉に残された糖分や、葉自体のアミノ酸などはアントシアニンという赤色の色素



○葉っぱが黄色に変わるしくみ

樹木の葉が緑色に見えるのは、葉緑素という緑色の色素があるからです。秋になって急激に気温が下がると、葉に養分を送る管がつまり始めます。葉に養分が行かなくなり、葉緑素が分解される為に緑色が消えていき、葉の中の色素はカロチノイドという黄色い色素だけになり、葉全体が黄色く見えるようになります。

に変わり、葉全体が紅く見えるようになります。葉が黄色くなる現象と、紅くなる現象が同時に進行することもあり、これによって色とりどりの紅葉が見られるわけです。

きれいな葉っぱを押し葉にしてオリジナルのカードを作ってみよう

押し葉(押し花)の作り方

- ①草花・葉っぱを採集しましょう。簡単に押し花に出来るものを選びます。(例：葉、網状脈の薄いもの、花、花弁の薄いもの)
 - ②採取した葉や花を新聞紙や電話帳にはさみます。紙質の粗いものが適します。重しを5キロ以上かけて下さい。よりきれいな押し葉、押し花を作りたい時は乾燥マット等の専用の用具が市販されています。また、アイロンや電子レンジでつくる方法もあります。
- ※紅葉の葉は硬いので重しを多めにするときれいに仕上がります。

牛乳パックを使ったポストカードの作り方

- 用意するもの
・牛乳パック アイロン アイロン台 タオル あて布(縫目の細かいもの) 押し葉(花)



②紙パックの白地(裏側)のビニールフィルム面に押し葉(花)をデザインします。



①牛乳パックを切り開き好みの大きさに切りまします。紙パックの角を1cmくらい折り曲げほくすようにもみ、紙パックの印刷面を薄くはがします。



③アイロン台の上にタオルを広げ、その上にデザインしたものを置き、あて布をあてアイロン(化繊3)で10秒かけて出来上がり。



色々なデザインで、楽しみましょう。

※作業する時はやけどしないように気を付けましょう。

参考：文庫 押し花で楽しむリサイクルフアート
掲載協力 アトリエドルチェ 藤田まゆみさん

カエデ類の育て方

苗木を購入する際は、園芸店に葉の形や紅葉の色、樹形の好みなどを伝えて相談するか、紅葉時に色づきの具合を見て購入するとよいでしょう。下枝が十分についているか、幹肌が病害虫におかされていないかもチェックして購入しましょう。

植える場所は、有機質に富んだ排水のよい土地で、しかも一年を通じて半日ほど日が当たる場所が理想的です。特に秋の紅葉を楽しむ場合合には、葉焼けを防ぐために、夏の強い西日はできるだけ避け、風通しの良い涼しい場所を選びましょう。

カエデは、自然に樹形を整えてくれる代表的な木で、剪定は込みすぎた枝、病害虫による枯枝などを、整理する程度です。カエデ類は、樹液の活動が他の木に比べて早く、2月には盛んになるので、剪定は落葉直後から12月までに終わらせます。また、カエデ類は刃物を嫌うので手で折れる枝はなるべく手で折りましょう。

●次号(1月発行)は竹の仲間について掲載する予定です。